

平成 22 年度自己評価結果公表シート

認定こども園 金城幼稚園・金城保育園

1、 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性	・職員間での報告、連絡、相談を徹底の重要性を全体で再確認。伝達等の漏れがないよう各自心がけホワイトボードの活用、口頭ではなく必ずメモ、記録に残すよう対策を立てた
Ⅴ 地域の自然や社会とのかかわり	・今年度より環境教育が始まり、環境について考える機会を作っている。環境講演会や講座以外にも意識して、園の周りの自然について子ども達に伝えるようになった
Ⅵ 保育の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	・些細な事でも担任・副担任で問題解決に向けてよく話し合っており、連携を取るように保育者一人一人が心がけている。また、そのことが普段の保育中に出来る研修・研究だという事に気づけた
Ⅷ 地域における子育て支援	・子育て支援担当以外の保育者も来園された方が心地良い場所であるように子ども達と一緒に明るく挨拶したり、声をかけたり園に入りやすい雰囲気作りを心がけている。

2、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

①昨年度の自己点検表を用いての実施と見えてきた課題、その取り組み

昨年度、自己評価項目の指標等の検討と評価体制の構築を行うことで、当園独自の自己評価項目と実施体制を確立することができた。

今年度はそれを用いて6月に第一回目の自己点検・自己評価を行った。昨年の経験者は自己評価することに慣れ、以前に比べて短時間で的を射た回答ができるようになった事、具体例を記入することで、まとめる側もどのような意図でその回答になったかが見えやすくなり、分析しやすくなった事が成果に現れた。8月に行われた職員合同研究発表会では大項目ごとに分かれ、グループディスカッションを行った。12月には第2回目の自己点検・自己評価を実施。この結果、保育内容について見直す必要があるのではないかという課題が見えてきた。

I デイリープラン II 教材・教具 III 行事 IV 指導計画という順序で見直しを行う事になった。まずは1月に行われた職員合同研究発表会の中でグループディスカッションを行い、各自持ち寄ったデイリープラン案を話し合い、どのようにしたら子ども達の生活にとってより良いプランになるか検討した。その後会議担当を決め、グループディスカッションで出た意見を集約しながら活動の意義や時間、環境設定など4回に渡って会議を開催し新しいデイリープランを作成した。

続いて教材・教具の見直しは3回に渡り開催した。現状の学用品では、行事や普段の活動と連動しているか、デイリープランの見直しで必要となる物がないかなど教材等について検討し新年度は新しい教材・教具を使用することとした。

2月に入り行事の内容や時期、指導の在り方について検討会議を開催した。行事についての検討では、必要なもの、簡略化できるものについて検討した。開催時期の変更、時期の近いものについてはまとめて開催することとした。これを基に年間指導計画案を作成し、来年度一年かけて修正していく予定である。

このように自己点検・自己評価を実施することにより、大変な作業ではあるが保育者一人ひとりの意識向上に確実に繋がっていると感じている。保育者一人ひとりの課題、園としての課題が明確になり、園長を中心に保育者が足並みをそろえて課題に取り組んで行くためにどうしたら良いか、考えられるようになっていく。

今後も継続していく事でさらに意味のある自己点検・自己評価になるのではないかと思います。

②今年度からの取り組み

今年度より認定こども園金城幼稚園・金城保育園では在園している児童の将来を考え、従来の教育内容に加えて国際理解：コミュニケーション能力（英語に慣れる）と環境教育：環境適応能力（環境について考える）を加えることとした。

内容：＜国際理解＞日本語と共に英語に慣れる・発音する・聴きとる事を重視、会話や言葉で表現する機会を増やす。

I 様々な人たち（年齢幅や国）との会話を増やす

II 英語講師の採用（3歳以上児：週1回）南魚沼市 ALT 経験者（山口京子さん）

III 英語のカードゲームや英語の物語 DVD、英語の歌 CD、絵本を取り入れる

＜環境教育＞地球環境を考える機会を増やす

I 空き缶、瓶、ペットボトル等のリサイクル活動

II 環境教育専門家の講演（高野孝子さん）

III 太陽光発電やリサイクルの方法や内容を知る機会を作る

この他にも園の水道、電気の使用量を毎月調べる、燃料と走行距離を調べ燃費を出す、ゴミがどの位出ているか、また減らすために古紙や廃品と分けて出すなどと取り組んでいる。

③客観性を高めるための学校関係者評価の実施

昨年に引き続き、同様の委員会メンバーで組織し、学校関係者評価を行った。7月に開催された第1回では、昨年度までの報告、今年度の途中経過、学校関係者評価委員会の役割、発表会について報告した。

第2回は12月に開催し、園の様子、保育の様子を見て頂いた。昨年は保育内容を見て頂く事ができなかったが、今年見て頂く事ができさらに園や保育についてご理解頂けたのではないかと感じている。

第3回は3月に開催した。今年一年の取り組みの報告、環境教育の取り組み報告を行い、委員会メンバーの方から様々な評価、ご意見を頂いた。

【学校関係者評価委員会メンバー】(敬称略)

内山 徹	南魚沼市指導主事	小林 民弥	塩沢小学校長	
八木 三男治	元小学校長・当学校法人理事	角谷 英朗	当園 PTA 会長	
小川 泰彦	当園 PTA 副会長	伊佐早 信昭	当園 PTA 副会長	
事務局	角谷金城幼稚園長	角谷金城保育園長	瀬下総括主任・廣田主任	担当：山口副主任

3、これから改善したいこと

評価項目	具体的な取組状況
II 保育の在り方・ 幼児への対応	・クラスの課題や製作と行事に結びつかない現状も見受けられるので、行事と製作等がさらに結びつくよう見直し、活動が意欲的となるよう計画していきたい。そこで、デイリープラン、行事の見直しを行った。来年度は年間指導計画案を修正していく
IV 保護者への対応・ 守秘義務	・記録の大切さについて各保育者の自覚が育っている。園としての記録事項及び保存期間の明確な基準作りを来年度に向けて取り組みたい
VI 保育の専門性に 関する研修・研究への 意欲・態度	・研修に自己課題を持ち、積極的に取り組み、報告もできている。ただし、興味・関心の幅が広がっていないことが分かったので、行事等の見直しを行い、業務量と質の改善を図り興味や関心の幅を広げていきたい
IV 保育の在り方・ 3歳未満児への対応	・3歳以上児クラスを受け持つ保育者が3歳未満児の自己評価を行うと、評価が低くなってしまう傾向があるが（逆も同様）、月齢や年齢ごとの対応を理解できていれば十分である。 3歳以上児クラスの保育者は3歳未満児の、3歳未満児クラスの保育者は3歳以上児の評価項目に目を通すだけで、自己評価は点数で行わず課題や良くできていることを記入する

4、学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・研究を重ね、きめ細かな評価項目を設定した上で、丁寧な自己評価と分析を行っている事に敬意を表す。今後も評価項目について研究し、重点化を図ったり項目を減らしたりすることが必要。 ・自己評価を担当者がまとめた後、グループディスカッションを行い、具体的改善策を検討し、実施までの流れが非常に効果的であり、意義ある学校評価となっている。 ・自己評価シートのまとめや取り組みの成果をもっとアピールしてよいと思う。 ・小学校と連携を組んで引き継いでいけたら効果が高くなると思う。 ・先生間の伝達はとても意識をして取り組んでいる様子が伝わっている。 ・環境教育は子どもにとって大きな財産となるので、日常の中で環境を意識する取り組みをこれからも続けて欲しい。 ・新しい教育内容（国際理解・環境教育）や取り組みが増える一方、各先生の意見を交えて簡略化・見直し・削減が行われた事により、準備や雑務に追われることなく余裕のある環境となってきている。 ・現在の研究は、子どものため、保護者のため、地域のためのものであり、継続していくことで地域の教育力全般に結びついていく大切なものである。 ・特徴ある園づくりはこれからも継続して欲しい。
--